

▼七月七日

菅原孝標女

世の中に、長恨歌といふ^{ふみ}文を、物語に書いてあるところあんなりと聞くに、いみじくゆかしけれど、え言ひよらぬに、さるべきたよりを尋ねて、七月七日言ひやる。

契りけむ昔の今日のゆかしさに天の川波うちいでつるかな

返し、

たちいづる天の川辺のゆかしさにつねはゆゆしきことも忘れぬ

(更級日記)

【口語訳】

世間で「長恨歌」という漢詩を、物語風に書いたものを持っている人がいるそうだと聞いて、なんとかかして読みたいとは思いますが、口に出しては頼めないでいると、さるつてがあり、七月七日にこう言い送った。

玄宗と楊貴妃が愛を誓い合ったという昔の「今日」のことの知りたさに、今日の天の川を渡る彦星のように天の川の波のように思い切って（読みたいという願いを）打ち開けさせていただきます。

返歌して、

彦星と織姫が逢うという天の川には私の心もひかれています。平素は不吉な本で（お見せしないもので）すが、お貸し致します。